

# 会議録

## 1 会議名

平成30年第3回上越市青少年健全育成センター運営協議会

## 2 議事（公開・非公開の別）

### (1) 報告（公開）

- ① 平成30年度 事業・活動報告
- ② 平成30年度 街頭指導結果報告
- ③ 平成30年度 小中学校「PTA1日街頭指導」実績報告
- ④ 平成30年度 「青少年を取り巻く社会環境の実態調査」・「立ち入り調査」報告
- ⑤ 第68回“社会を明るくする運動”事業報告
- ⑥ 育成委員協議会委員アンケート調査のまとめ
- ⑦ 若者育成支援事業の進捗状況について
- ⑧ その他

### (2) 協議（公開）

- ① 平成31年度 運営方針と事業計画（案）
- ② 平成31年度 青少年育成支援の具体的な方策（案）
- ③ その他

### (3) 情報交換（公開）

### (4) その他（公開）

## 3 開催日時

平成31年2月15日（金）午後2時から3時30分まで

## 4 開催場所

上越市教育プラザ 研修棟小会議室

## 5 傍聴人の数

1人

## 6 非公開の理由

なし

## 7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・委員：飯塚裕、小松敦、山本条太郎、関川正樹、杉本正彦、小山貞榮、古川美也子、岩片喜代子、鈴木真理子、大堀みき、吉岡智宣
- ・事務局：上越市教育委員会社会教育課副課長 福山 亮（小池兼一郎課長の代理）  
上越市青少年健全育成センター 山崎光隆所長、曾我茂樹指導員

## 8 発言の内容

### 《 議 事 》

#### (1) 報告

事務局より報告事項①～⑦（資料 P4～P22）を説明、⑧その他はなし。

（質疑なし）

#### (2) 協議

事務局より協議事項①～②（資料 P23～P25）を説明、③その他はなし。

（質疑）

吉岡委員：P 2 0 で「相談のための部屋の確保が困難」とあるが、実際にこういった状況が起こったのではないかと思う。その場合どのように対処したのか。

曾我指導員：教育プラザで部屋の確保が難しい場合は、オーレンプラザのフロアで椅子のあるコーナーを利用したこともあった。ただし、今までのところそういうケースはあまり多くない。今後、突発的に相談が必要なときに確保できない場合が出てくると考えられる。また、定期的に通って来ている子どもが今は 1 名なので、週 1 回の部屋の確保はそれほど難しくない。しかし、今後人数が増えた場合に困難な状況が出てくると考えられる。

（賛成多数で協議事項①，②を承認）

#### (3) 情報交換

関川委員：保護司会では 3 年の計画で各小学校区に啓発看板を作って配布している。

今年は 3 年目で最終年であり、1 0 校の小学校に配布した。看板に書かれている内容は「いけないよ、言える勇気と聞く勇気」である。3 0 年度で全小学校区に設置を完了した。

古川委員：高田西小学校区に新しくできた書店に隣接して喫茶店がある。その喫茶店の窓側に子供がずらっと並び勉強をしている。これは店側が承知しているのか、席を占領されて迷惑をしているのかよくわからないが、他の人の迷惑になっていないのだろうか。

曾我指導員：高校生が多いのだろうと思われる。学校以外の場所で、テスト前に勉強に利用できる場所があまり無いのではないか。そういう実情を反映しているのではないかと思う。

山本委員：私の方から警察署で昨年 1 年間検挙、補導した少年について説明をさせてもらう。昨年、当署管内において刑法犯で検挙された非行少年は総数で 3 8

名で、昨年に比較してプラス2名という状況である。この中には今流行っている特殊詐欺の「受け子」といわれる少年が6名いる。これは東京の方から上越に来て非行を犯し検挙された者である。この6名を除けば検挙数は減少傾向にあるといえる。また、この特殊詐欺の「受け子」については、今後これ程の人数を逮捕するという事は無いと思うが、特殊詐欺については無くなることはない。従って、また少年が捕まる可能性はある。昨年は東京から上越に来てやっていたが、新潟県内でもやっているグループがある。いつ何時、上越の少年がそれに加わるかも分からないと思っている。なお、この38名の内訳は、小学生が6名、中学生が8名、高校生が9名、その他専門学校生が8名、有職少年が6名、無職少年が1名となっている。次に、特別刑法犯で検挙した者は4名。平成29年が10名なのでマイナス6となり、大幅に減少している。この4名の内訳は専門学生が1名、有職少年が1名、無職少年が2名である。以上が、非行少年で検挙している数である。この他、非行少年ではないが飲酒や喫煙等で補導した人数について報告する。昨年は197名を補導している。平成29年が232名なので、マイナス35と減少している。主なものとして飲酒が6名、喫煙が60名、深夜徘徊が116名である。年々減少傾向にあるのでよい傾向にあると思っている。

飯塚委員：小学校長会での教育委員会の指導の中で、不登校児童が今年度増加しているという情報があった。いじめの認知件数も増えているが、どちらかというと不登校の増加の方が目立っている。「初期対応を確実に行うように」という指導を受けている。それぞれ原因が一律ではないので一概には言えないが、全国的には発達障害の子供が増えていることもあり、そこへの対応が課題であると思う。ひきこもりの件について報告をしてもらったが、不登校も長期化して小・中学校と続いていくと、ひきこもりにつながってしまうのではないかと思った。また、先ほど「親の会」の報告があったが、今、小さい子供を子育てしている母親が非常に困っているのではないかと思うので、非常によい取組だと思った。次に、市の方でゲーム・ネット関係の調査があり、その結果が学校に送られてきた。これについて当校の特徴として、携帯するゲーム機の使用率が市の平均よりだいぶ上であることが分かった。その内容を聞いてみると、買い物やネットゲームをしていることが分かった

が、そのあたりを親が知っているのかどうかを確認してみる必要があると思った。これからはネットトラブルが小学生の低学年にまで増えてくるのではないかと思うので、情報モラルについてもちゃんと学校で教えていく必要がある。また、個人的に気になっていることがある。昨年、上越市内で強盗事件が起こった際に、P T Aメールで保護者に情報を流して、その後3日間送り迎えをしてもらった。その時に、地域の役員の皆さんから、「自分たちにも連絡をくれれば朝巡回するよ」とうれしい言葉をもらった。何かあった時の連携の整備が課題であると思う。

小松委員：中学校長会の中で特に大きな問題を抱えている学校の報告は無い。今年1年間全体として穏やかに過ごすことができた。その中で、不登校の生徒については若干増加ぎみである。また、今ほど飯塚委員から小学校のSNSやメディアについての話があったが、ちょうど当校の資料があるので少し示したいと思う。当校のデータは上越市の平均より低いと考えられるが、それでも「スマホや携帯電話を持っている」生徒は全校で29%いる。「家族のものを借りて使っている」という生徒は36%である。「持っていない、使っていない」と答えたのは33%で、約3分の2は使っていることになる。それも学年が上がるに従って「自分の物を持っている」という割合が増える。これはスマホ、携帯電話であるが、この他にタブレット、アイポッドタッチが別にある。これを「持っている」と答えたのが全校で32%、「家族のものを借りて使う」が4%である。「持っていない、使っていない」が36%であり、これもスマホ、携帯と同じ傾向である。携帯ゲーム機については73%が持っている。この調査の結果を見て一番心配なのは、スマホやゲーム機などの使い方について「家での約束事がある」と答えた生徒が全校で36%だったことである。「前はあったが今は無い」と答えた生徒が16%、「初めから無い」が45%で、だいたい半分が約束をしないまま持たせていることになる。学校の方では持たせる場合にはしっかり約束事を決めてくださいと言っている。一昨年、市P T A連合会の方でもルールを決めたのだが、それが機能していない状態なのではないかと思う。また、これはある小学校の例であるが、T i k T o k (ティクトック) をやって流したという小学生がいるようである。そうなれば中学生でもやっていると考えられる。し

かし、学校職員はそれをよく分かっていないという現状がある。どんどん新しいものが出てくるので、それに対応する研修が必要だと感じている。

杉本委員：町内会関係では、大潟区町内会長会の方から、「子供がよく写真を撮られる」「声を掛けられる」という事案があり、できれば見守り活動を町内会全体からやってもらえないかという話が出ている。市町内会長会の全体には話をしてあるが、それぞれの町内の実態もあるので強制的にやるということとはできない。少しずつできる町内から見守り活動をやっていこうということにはなってきた。また、大潟区の防犯協会が青色パトロールの車を用意して地域で活動しようということにもなってきた。このように、公共の青色パトロール車だけでなく、地域で取り組む例も1ヶ所だけではあるが聞いている。これからもそれぞれの地域と、警察、青少年健全育成に関係するいろいろな団体とが協力して見守り活動をやっていく必要があると思う。なお、高志小学校区や春日小学校区を中心とした地区では、町内会をオープンにして子供たちの見守り活動を行っている。ゴミ捨てに行く時に声掛けをするといった取組が出てきているので、よいことであると考えている。

小山委員：配布したお手元の資料をご覧いただきたい（新潟県子ども会育成連合会たより）。その4ページに頸城子ども会の活動の様子が掲載されている。今回のたよりにはこれだけしか出ていないが、これまでも上越地区の中学生や高校生のリーダーのことが沢山取り上げられているおり、中学生、高校生のジュニアリーダーの皆さんが活躍している。また、先ほど杉本委員の方から話しがあった事について、私は地元が上下浜小学校区なのだが、見守り活動は順番制である。全学年を含めて、例えば3時上がりと4時上がり、全部見守りをやっている。また、保護者も順番制でやっており、それがずっと続いている。他の学校区の皆さんにもぜひ広げてもらいたいと思う。

古川委員：先ほど小松委員からありましたネットについて、平成28年度に市P連で「アウトメディア宣言」というものを出している。しかし、これが出したきりになっている。平成30年度はPTA連合会の全国大会が新潟県で開かれたためにそこに力を注いだが、来年度はまたこちらの方を推進していこうかという話をしている。

鈴木委員：中学校では市内の私立高校の入試が終わり1月中に進路が決定する子供が

いる一方、3月初めに公立入試があるため、緊張して毎日を過ごしている子供もいる。私が面談をする中でも、すでに合格をもらった子供もいれば、まだまだ一緒に頑張ろうねと相談を続けている子供もいる。その中で、不登校の保護者の方から、「通信制に通えるのだろうか」という心配の声や、卒業後の相談先についての問い合わせが何件か来ている。その際、この「つなぎナビ」を使わせてもらっている。これを使って、今後の相談先を紹介するとともに、今後困った時に相談していきましょうという話をしている。また、小学校、中学校、高校間の情報の引継ぎが不確実になることもある時期である。特に中学校から高校へという情報について、私たちが持っている情報があれば、それを伝えながら連携していきたいと思う。

大堀委員：新聞を見ているといじめや虐待の話題が出ない日が無いほどで、殺伐として感じている。私たちとしてはアンテナを広げて、自分の所の子供だけではなくいろんな所に関わって行くことも大事だと感じている。

吉岡委員：先ほど皆さんからSNSについてや、スマホなどの電子機器についての話があった。機器については多くの子供が持っているのが実情であり、この流れは数年前からある。これは時代の流れとして必然であり、これを抑制するのは無理な話であると思う。その中でどういった対策があるのか、それを考えていくことがこれからの方向なのだと改めて認識させてもらった。また、不登校の子供が相変わらず多いということだが、これは発達の問題だという話があった。これはすごく難しい問題で、社会の枠に当てはめようとする限りは必ず今後も適応できない子供が出続けるのだと思う。では、その代替案として何があるのかということを考え、そのための仕組み作りをしていく必要がある。私自身も活動をしながら力になればと感じたところである。

#### (4) その他

事務局：委員の任期は平成32年4月30日までとなっている。来年も引き続き協議会委員としてご協力をお願いしたい。なお、やむを得ず委員の変更がある場合は、できるだけ早く事務局に連絡をいただきたい。

9 問合せ先

上越市青少年健全育成センター TEL : 025-544-4690

10 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。